

宮城県重症心身障害児(者)を守る会  
**創立40周年記念式典挨拶**

会長 秋元俊通

本日、宮城県重症心身障害児(者)を守る会の創立40周年記念式典を、日頃よりご理解とご支援を頂戴いたしております宮城県並びに仙台市ご当局を始めとする多くの皆様をお迎えいたして開催できますことは、無上の喜びとするところでございます。

思い起こせば、40年前に「経済的に何の価値もない」と言われ、どこにも行くところがなかった重症心身障害児・者を、国立病院・療養所に入所させていただくための当事者団体として創立された全国重症心身障害児(者)を守る会に呼応して、それまでマザーズホームで細々と活動をしていた田中美代子初代会長を始めとする数名の会員が発起したのが当会の始まりでした。

創立当時の障害児・者への福祉と比べますと、現在の福祉の手厚さには驚くべきものがあります。この40年の長きに亘り、重症心身障害児・者のために一心不乱に活動なされてこられた諸先輩に頭の下がる思いであります。

私が熊谷務第三代目会長から引き継ぎましたこの10年を振り返りましても、東北初の法人立重症心身障害児施設エコー療育園の充実、やはり東北初の重症心身障害児・者通所施設A型「みつばち」の開所がございました。これには、社会福祉法人陽光福祉会の理事長でもあられる熊谷務前会長の私財をなげうっての御尽力の賜物でございます。また、宮城方式といわれる養護学校への看護師の配置、共生型グループホーム「ながさか」での重症心身障害者の適応性の試みなど多くの福祉の向上がございました。

また、当会での開催が2回目となる「第39回重症心身障害児(者)を守る全国大会」を開催いたし、会員の団結力を再確認できましたし、これを契機に物心両面のご支援を頂戴いたしております「宮城県重症心身障害児・者を支援する会」を立ち上げていただいたことも大きな成果でした。この支援する会の創立、守る会大崎分会および栗原分会の創立、仙台分会の再編、第7回を数えた「地域交流懇談会」等によって、重症心身障害児・者をご理解いただける方々の輪が一層広がっております。

この40年間を振り返り、ご支援を賜りました多くの皆様への感謝の心を忘れず、「もっとも弱いものを一人ももれなく守る」の精神に則り、皆様の共感をいただきながら、社会の一員としての重症心

身障害児および重症心身障害者の更なる幸せを模索し、一日も早く地域で誰もが安心して生活できる社会、障害のある人も無い人も全ての方が幸せになっていただけるような社会の実現を目指してまいっている覚悟を新たにいたしました次第であります。

従来を守る会の式典は、障害者を抱えているからこそ、精一杯明るく楽しく企画してまいりました。そのため、「障害者の保護者とは思えないね」、「変に明るすぎるよね」、といわれるほど派手なお祭りをしてまいりましたが、今回はかなり地味目で、また会場の関係もありましてお招きいたしました御来賓の方も、ごく内輪の方に限定いたし、少なめであります。

本日の式典ならびに昼食会は、当会の下川原実行委員長をはじめ、主に若手の在宅の障害者をお持ちの会員を実行委員として企画いたしましたものでございます。

多少不行き届きの点はございましょうが、会員を中心とした、若手会員の手作りの式典を目指しました。

現実に、育児や介護の真っ只中における実行委員にとっては、この時間帯でこの企画が、現在の恵まれた福祉環境いる私たちにとってでさえ、これで精一杯というのが日々の生活の現実であることを、御来賓の皆様も含めまして、ご来場の皆様に実感していただければ、下川原委員長の意図するところをご理解いただけるのではないかと存じます。

現在、障害者基礎構造改革を皮切りに、支援費制度、国立病院・療養所の独立行政法人化、グランドデザイン、障害者自立支援法と、障害児・者の福祉環境が激動しておる現在ではございますが、今後共の一層のご指導と変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。